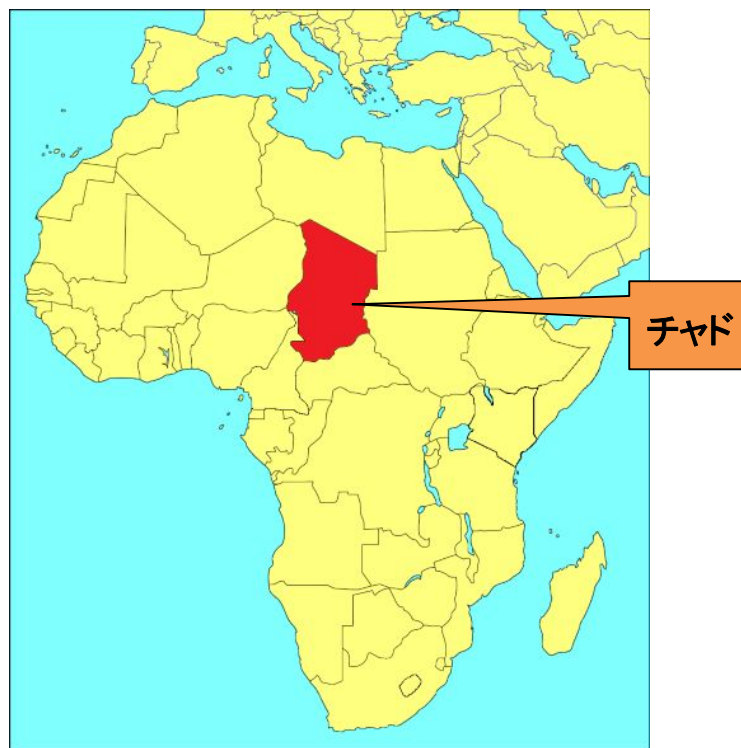


チャドで髄膜炎菌性髄膜炎が流行

2011年3月9日 ProMED 情報(WHO、GAR)



チャド保健省は、1月1日～3月6日までの間に57名の死亡患者を含む923名の髄膜炎菌性髄膜炎疑い患者を報告しました。これまでのところ、主にロゴン・オクシデンタル Logone Occidental 州の5地区(Benoye、Kello、Laokassy、メルフィ Melfi、ムンドゥー Moundou)で流行がみられ、他の2地区(Boussou、Sarh)でも警報レベルとなっています。

本流行は、検査(ラテックス凝集法)により、A群髄膜炎菌固定が主体であることが確認されており、その他の血清型の髄膜炎菌は現在のところ確認されていません。

流行地区(上記5地区)における集団予防接種実施のため、A群C群混合の2価ワクチン75万2千本が供給されました。

世界保健機関(WHO)、国連児童基金(UNICEF)、国境なき医師団(MSF)、国際赤十字(IFRC)は、予防接種活動、患者の管理、近隣地域の監視等の緊急対策をチャド保健省と協力実施しています。

[ProMED 調整者]

サハラ砂漠以南のアフリカ地域では、例年乾季(12月～6月)に髄膜炎菌性髄膜炎の流行が起こっています。チャドは、アフリカ東海岸から西海岸に至る「髄膜地帯」のまん中に位置しています。感染率は人口10万人あたり100～800人とされていますが、個々の集落では、1,000人に達すると報告されています。

WHOでは、流行制圧のため、すべての発生地区で集団予防接種を適切に実施するよう勧告しています。